スポーツ庁
JAPAN SPORTS AGENCY

令和7年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

岐阜県白川町

自 治 体 名 ： 岐阜県白川町
担 当 課 名 ： 教育課
電 話 番 号 ： 0574-72-2317

1.自治体の基本情報

スポーツ庁

基本情報

面積	237.90㎢
人口	6,722人
公立中学校数	2校
公立中学校生徒数	148人
部活動数 （運動部活動のみ）	8部活
地域クラブ活動数	6クラブ
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定に向けて準備中

地域連携・地域展開における市区町村の現状・課題

1．本町の現状

- 本町には2つの中学校があり、部活動の変遷についてはそれぞれ異なる歴史を有している。平成29年3月に発足した「一般社団法人スポーツリンク白川」は、学校部活動と連携した地域クラブ活動の運営主体として、その役割を担ってきた。今後は中学校の統合を含む学校再編を視野に入れ、平日の活動を含めた部活動の地域移行について、本町の実情に即した形で進めていく必要がある。

2．本町の目標

- 中学校統合を見据え、令和9年度から平日・休日ともに地域クラブとして実施する。
- 令和5年度から令和8年度は段階的に展開していく期間とする。

○種目等

- 現在の種目を維持するとともに、スポーツ少年団の種目を続けられるよう工夫する。
- 多様なスポーツ活動、文化活動、多種目・多世代・多志向に対応するよう工夫する。

○運営団体

- 「一般社団法人スポーツリンク白川」が活動時間、場所、連絡、指導者確保等について運営する。

3．本町の課題

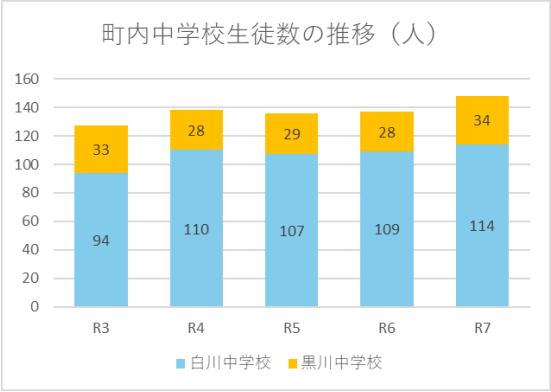
- 地域指導者の確保や研修機会の充実のほか、謝金規定の見直し（財源の確保）、2つの中学校との連携（活動時間や活動場所等）等の課題があり、運営団体となる「一般社団法人スポーツリンク白川」の体制強化が課題である。

※具体的には・・・クラブガイドラインの作成、中学校の部活動との連携の在り方、平日のクラブ終了後の帰宅バスの在り方（休日の移動支援も含めて）、指導者謝金の財源確保、クラブ運営費の在り方、地域未来塾（学校地域協働活動）の継続と充実　等

4．本町の方向性

～部活動の地域展開（子どものスポーツ活動）を含めた「まち全体のスポーツ環境の整備」～

- 町教育委員会、中学校、「一般社団法人スポーツリンク白川」等関係機関の連絡・調整役を担うコーディネーターを設置し、今後の方向性を踏まえた各種規定の整備を行う。さらには中学校の統合を視野に入れた体制の整備について「新しい学校づくり検討委員会」等において協議・検討を進める。



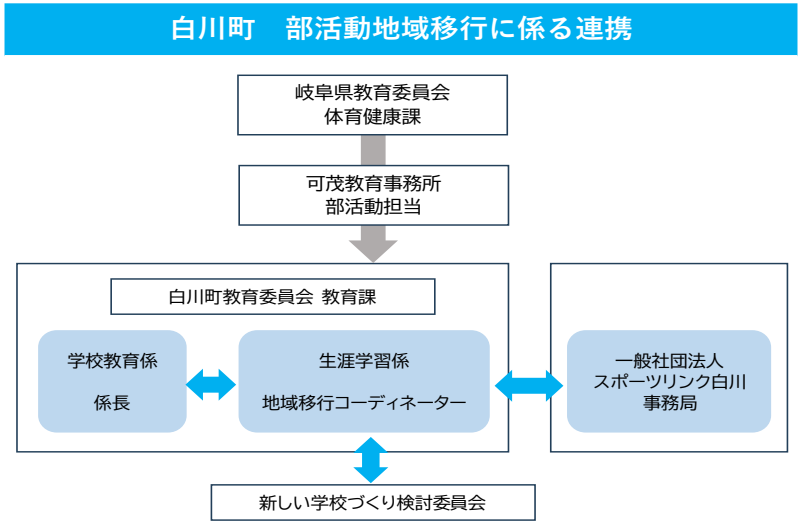
出典：白川町教育委員会教育課

2.実証内容と成果

スポーツ庁

運営体制・役割

●市区町村における推進体制図



●行政組織内での役割分担

◉教育委員会（教育課）
【学校教育係】
- 町の部活動地域移行に係る窓口
- 県担当課との連絡・連携

【教育課生涯学習係】
- 地域移行コーディネーターの配置（生涯学習指導監との兼務1名）

◉首長部局（振興課地域支援係）
- 町公共交通とスポリンバス運行調整
- 運行事業者の確保

◉コーディネーター
- 中学校及びスポーツリンク、関係機関との連絡調整

年間の事業スケジュール

令和7年4月	推進体制に関する内部協議
令和7年4月	国庫委託事業の実施（3年目）（令和7年地域スポーツクラブ活動体制整備事業）
令和7年4月	佐見地区スポーツリンクバスの運行
令和7年5月	黒川中学校部活動保護者懇談会
令和7年12月	黒川中学校部活動保護者懇談会
令和7年12月	令和8年度予算検討・要求
令和8年2・3月	地域指導者謝金の支払い
随時	関係機関との打ち合わせ
随時	可茂地区コーディネーターとの定期打ち合わせ

2.実証内容と成果

スポーツ庁

地域クラブ活動の運営実績

①全体に関すること

実施した地域クラブ活動総数		6クラブ	
ケース別地域クラブ活動数	A：部活動を地域移行した形の地域クラブ活動数（及び移行された部活動数）		4クラブ（4部活動）
	B：部活動にはない種目等、新規の地域クラブ活動数		2クラブ
全体の指導者数	17人	全体の運営スタッフ数	6人

②各地域クラブ活動に関すること（一部抜粋）

地域クラブ活動名	運営団体種別	種目	実施回数（平日・休日）	実施時間帯	参加者（学年別）	実施期間	指導者数	運営スタッフ数（他クラブと兼務）	会費	大会参加方法
男子バスケットボール	地域スポーツ団体等運営型	バスケットボール	平日 2回 土日どちらか	平日：夜間 土日：日中	1年：4人 2年：8人 3年：3人	通年	3人	1人	24,000円/年額	中体連：部活動 その他：地域クラブ
女子バレーボール	地域スポーツ団体等運営型	バレーボール	平日 2回 土日どちらか	平日：夜間 土日：日中	1年：2人 2年：5人 3年：7人	通年	2人	1人	12,000円/年額	中体連：部活動 その他：地域クラブ
男女剣道	地域スポーツ団体等運営型	剣道	平日 1回 土日どちらか	平日：夜間 土日：日中	1年：2人 2年：2人 3年：3人	通年	3人	1人	12,000円/年額	中体連：地域クラブ その他：地域クラブ
男子バレーボール	地域スポーツ団体等運営型	バレーボール	平日 2回 土日どちらか	平日：夜間 土日：日中	1年：6人 2年：6人 3年：8人	通年	6人	1人	36,000円/年額	中体連：地域クラブ その他：地域クラブ
女子ソフトボール	地域スポーツ団体等運営型	ソフトボール	平日 2回 土日どちらか	平日：夜間 土日：日中	1年：3人 2年：5人 3年：2人	通年	1人	1人	36,000円/年額	中体連：地域クラブ その他：地域クラブ
男女ソフトテニス	地域スポーツ団体等運営型	ソフトテニス	平日 1回 土日どちらか	平日：夜間 土日：日中	1年：3人 2年：4人 3年：4人	通年	2人	1人	6,000円/年額	中体連：部活動 その他：地域クラブ

2.実証内容と成果

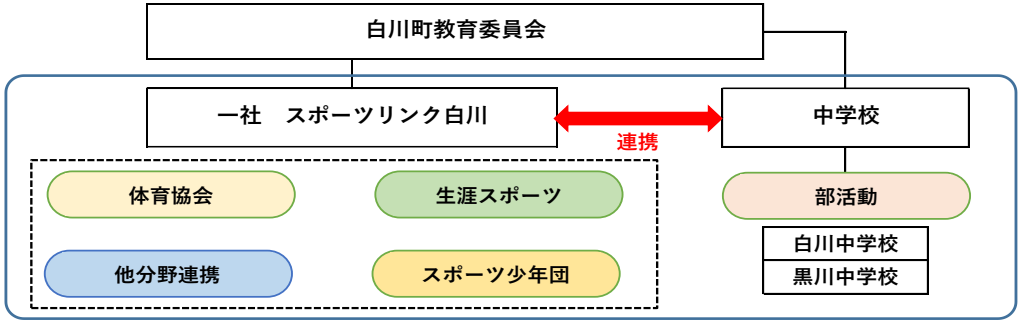
スポーツ庁

主な取組例

●スポーツリンク白川　活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	バスケットボール、バレーボール、剣道、ソフトボール、ソフトテニス
運営団体名	一般社団法人　スポーツリンク白川
期間と日数	平日：週に2回程度（1回2時間） 休日：週に1回程度（1回3時間）
指導者の主な属性	中学校長及びスポーツリンク白川が委嘱する地域指導者
活動場所	町内（中学校体育施設ほか）
主な移動手段	保護者による送迎のほか、佐見地区は町が運行するバス（スポリンバス）を利用
1人あたりの参加会費等（年額）	スポーツリンク白川年会費（中学生）：1,000円 各クラブの会費：30,000円～36,000円程度
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

●地域クラブ活動を実施する際の運営体制図



白川中学校（114人）	平日放課後	平日17日以降及び休日
1　女子バレー（女子）	部活動	クラブ活動
2　男子バスケット（男子）		
3　剣道（男女）		
4　吹奏楽（男女）		
5　ブレイズ（女子ソフト）		
6　ネクサス（男子バレー）		
指導体制　・教員＋地域指導者（18人）		

黒川中学校（34人）	平日放課後	平日17日以降及び休日
1　ソフトテニス（男女）	部活動	クラブ活動
2　バドミントン（男女）		部活動
3　剣道（男女）		
4　文化（男女）		
指導体制　・教員＋地域指導者（2人）		

●指導者や運営スタッフ等の役割分担等

- 指導者
  役割：クラブ員に対する技術指導等を行う
- クラブ代表者　1名（保護者代表）
  役割：クラブ全般の運営及び学校・指導者等との連絡調整を行う

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

- 教員OBによる部活動地域移行コーディネーターを配置し、運営団体（一般社団法人スポーツリンク白川）、各中学校、各地域クラブとの調整・連携を図るとともに、実施主体となる地域クラブの立ち上げ等に関する相談窓口として対応した。
- 地域展開の趣旨や活動方針を示すため、「部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方に関するガイドライン」を作成した（令和8年3月策定予定）。

取組の成果

- コーディネーターを配置したことで、関係団体との連絡調整や会議運営等を円滑に行うことができた。
- 新たな地域クラブの立ち上げに伴う諸課題について、コーディネーターが調整役となり、課題解決に向けた協議を進めることができた。
- 地域展開が遅れていた黒川中学校の部活動については、コーディネーターが中学校、保護者、地域協力者の相談窓口となり、ソフトテニスクラブを休日の地域クラブ活動として創設するに至った。これにより、休日の活動を地域クラブとして実施できる体制が整備された。

今後の取組における課題

- 黒川中学校のソフトテニス部以外の部活動についても、地域展開の実施主体となる地域クラブを創設するための支援が必要である。
- 令和11年度に統合が予定されている白川中学校と黒川中学校では、地域クラブ設立の経緯が異なるうえ、保護者や地域の考え方にも違いがあることから、関係者とのさらなる調整及び連携が求められる。

課題への対応方針

- 引き続き関係者間の調整を円滑に進めるため、コーディネーターを配置し、全ての部活動において地域展開の実施主体となる地域クラブの立ち上げを目指す。
- 白川中学校と黒川中学校の統合を控え、子どもたちにとってよりよいスポーツ環境を実現するための協議や、連携を深めるための場を設けていく。

2.実証内容と成果

取組内容

●取組項目名　ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

コーディネーターの具体的な動きの実績

- 黒川中学校の部活動担当、保護者代表、地域協力者、一般社団法人スポーツリンク白川との連絡調整及び相談窓口を担い、地域クラブの創設と地域移行の推進を図った。
- 令和7年4月25日に開催された黒川中学校部活動保護者懇談会に出席し、町としての地域移行に関する方針を説明するとともに、休日の地域クラブ化に向けて協議した。
- 令和7年12月18日の黒川中学校部活動保護者懇談会に出席し、来年度以降の地域移行スケジュールを説明し、白川中学校との統合を踏まえた地域クラブの在り方について議論した。
- 「部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方に関するガイドライン」の作成を進めており、令和8年3月の策定を予定している。

地域クラブ活動の運営効率化に向けた取組

- 今年度は効率化に向けた具体的な取組は実施していないが、単独の市町村では成立しない地域クラブ（種目）も存在するため、近隣市町村における地域クラブ活動の情報を一元的に管理する方法の必要性について検討する。

運営団体・実施主体の安全性確保に向けた取組

- 運営団体である一般社団法人スポーツリンク白川は、法人格（一般社団法人）を取得し、定款に基づき適正な地域クラブ運営を行っている。

地域クラブ活動におけるトラブル・事故発生時の対応方針

- 地域クラブ活動において生徒同士のトラブル等が発生した場合は、運営団体である一般社団法人スポーツリンク白川が在籍中学校と連携して対応する。そのため、同法人では日頃から中学校との連携を密にするとともに、年2回、部活動顧問との連携会議を開催し、各地域クラブの活動目標や目指す子どもの姿等を共有する等、連携体制の強化を図っている。
- 地域クラブ活動中に事故やケガ等が発生した場合は、運営団体である一般社団法人スポーツリンク白川事務局が状況の把握及び保険手続きの窓口となる。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　イ：指導者の質の保障・量の確保

取組事項

○ 指導者謝金の支払い
- 指導者ごとに指導記録簿を作成し、記録簿に基づく謝金を支払っている。指導者の確保を図るため、適切な謝金について検証する資料とした。

○ 新たな種目の指導者の確保
- 一般社団法人スポーツリンク白川だけでなく、保護者や地域協力者とも連携し、地域内や様々な場で指導者としての協力についてはたらきかけを行った。

取組の成果

- 指導記録簿に基づく謝金の支払いにより、指導者ごとの指導実績が把握でき、現段階の謝金に関する課題を明らかにすることができた。
- 様々な関係者が指導者確保に取組むことで、地域内の事業所で勤務する方の中から新たな種目で地域指導者を確保できた。（ソフトテニス2名）

今後の取組における課題

- 白川地区は20年以上前から地域主体で運営する基盤が整っている一方、黒川地区では新たに地域クラブを立ち上げる必要があり、費用面や運営面での負担感が大きい。このように、白川中学校と黒川中学校では地域展開の実施主体となる地域クラブ設立の経緯が異なり、指導者謝金の在り方や運営に対する考え方にも違いがみられる。今後は学校統合も予定されていることから、よりよいスポーツ環境を継続して維持するため、関係者間の調整が必要である。
- 3年間の指導実績を踏まえ、適切な謝金水準及び持続可能な謝金規定を構築する必要がある。

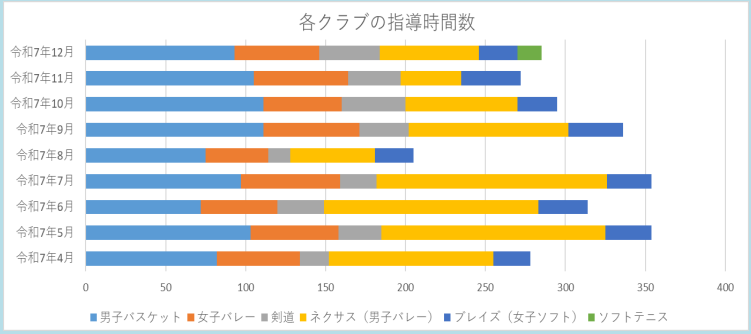
課題への対応方針

- 学校統合後も現在の地域クラブ活動が維持され、よりよいスポーツ環境となるよう関係者間での協議・検討を進める。
- 指導者の確保を推進するためにも、適切な謝金水準を定め、計画的に財源を確保する。

【令和7年度地域指導者謝金実績（令和7年12月分まで）】

1. 指導回数	1,209回	4. 時間単価	500円
2. 総指導時間	3,816時間	5. 謝金支払額	1,428,000円
3. 支払時間数	2,693時間	6. 年間見込み	1,790,000円

※時間単価1,000円とした場合に必要な予算額　3,580,000円



2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　イ：指導者の質の保障・量の確保

多様な人材の発掘・配置に向けた取組

- 黒川中学校では、新たに立ち上げを目指すソフトテニスクラブの地域指導者を確保するため、一般社団法人スポーツリンク白川や部活動保護者以外に地域協力者（地育リーダーズ）の協力により、地域内の企業や事業所等へはたらきかけることができ、指導者の確保につながった。（ソフトテニス2名）

指導者研修の内容

研修名	ハラスメントについて
講師	可茂地区地域クラブコーディネーター　山本峰明 氏
研修内容	ハラスメントをテーマとした勉強会として開催 指導者、保護者、小中学生　36名参加

研修名	成長期の子どもを応援する食事とは
講師	岐阜女子大学家政学部健康栄養学科　和田玲子 氏
研修内容	子どもの成長やスポーツ活動に必要な栄養、水分摂取をテーマとした勉強会として開催 指導者、保護者、小中学生　30名参加

研修名	救急救命講習会
講師	町防災アドバイザー　鈴村眞人 氏
研修内容	心肺蘇生法、AED取扱講習 指導者、保護者　20名参加

指導者研修受講者の声

●参加者の声

参加者①
指導者として、普段の子どもたちへの声のかけ方等、自分の姿を振り返るよい機会となりました。

参加者②
ここ最近の異常な暑さで、今日学んだことがいつ必要となるかわからないなか、スポーツ指導に関わるものとして大変勉強になりました。
今後も定期的に講習会に参加することも必要だと感じました。

指導者総数	17人
資格所持指導者数	7人
本年度資格を取得した指導者	0人

指導者の資格取得促進に向けた取組

○ スポーツリンク白川による資格取得に対する支援

- 資格取得費用に対する助成　　上限15,000円
- 資格取得に要する交通費助成　　実費（キロあたり37円）
- 指導者総数：17人　　資格所持指導者数：７人
- 本年度資格を取得した指導者：０人

平日・休日の一貫指導に関する取組

- スポーツリンク白川が主体となり、各地域クラブに年度当初と、8月の中体連後の新体制開始時に、地域クラブとしての活動目標や目指す子どもの姿を設定する「ドリームシート」を作成している。「ドリームシート」は作成後、部活動顧問と共有し、平日の部活動と地域クラブ活動で一貫した指導に役立てている。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　ウ：関係団体・分野との連携強化

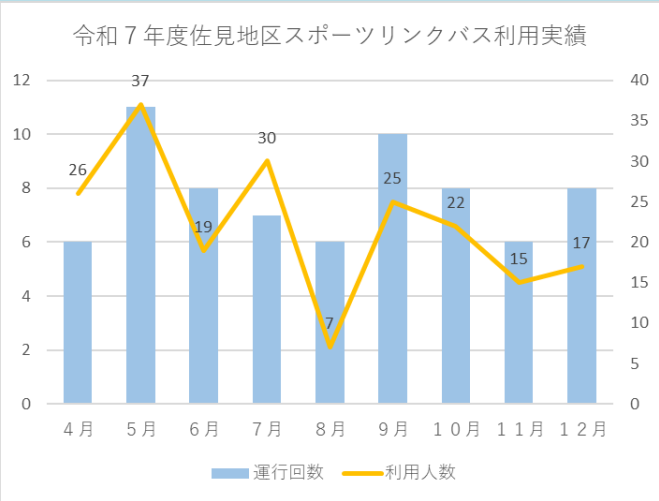
取組事項

○ 地域公共交通との連携に関する取組

- 町によるスポーツリンクバスの運行（白川中学校～佐見地区　約30km）
- 町営自家用有償運送の仕組みを利用した移動手段の確保

【スポーツリンクバスの運行実績（令和7年4月～12月）】

・運行日数	70日間	・運行経費	866,250円
・利用者数	198人（延べ）	・1回あたり	12,375円
・運送距離	1,971km（延べ）	・1人あたり	4,375円



出典:白川町教育委員会教育課

取組の成果

○ スポーツリンクバス運行による移動手段の確保

- 活動場所（白川中学校）から遠距離にある佐見地区に、平日のクラブ活動後の帰りのバスを運行することで移動手段を確保し、保護者負担の軽減により参加しやすい環境とした。
- 長期休業期間中（夏休み）は、スポーツリンクバスと町の公共交通（町営自家用有償運送）が連携することで、地域クラブ活動の行き帰りの移動手段を確保した。

今後の取組における課題

○ 佐見地区以外の移動手段の確保

- 佐見地区以外の遠距離となる地区へのスポーツリンクバス運行等による移動手段の確保に加え、白川中学校と黒川中学校の統合を見据えた移動手段の確保が必要となる。

課題への対応方針

○ 移動手段の確保は保護者にとっても必要不可欠であるが、広い町域に全てスポーツリンクバスを運行することは困難である。町の公共交通と連携し、高校生の帰宅手段等と合わせて検討を進める。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　ウ：関係団体・分野との連携強化

地域公共交通との連携に関する取組

○ 振興課地域支援係（公共交通担当）との調整

- 佐見地区以外でのスポーツリンクバスの運行や、公共交通を活用した移動手段の確保について協議を行った。しかし、平日夕方以降はJRの運行時刻に合わせたダイヤとなっているため、調整が難しい状況であった。今後は、地域クラブ活動の時間設定の見直しや、役場新庁舎をバス待合所として活用すること等、関係部署との連携を図りながら、クラブ活動に必要な移動手段の確保を進めていきたい。

まちづくりと連携した取組

○ 振興課地域支援係（公共交通担当）との協議

- 佐見地区以外へのスポーツリンクバスの運行や公共交通を利用した移動手段の確保について協議を行ったが、平日の夕方以降はJRの時刻に合わせたダイヤであり調整が困難であった。今後、地域クラブ活動時間の調整やバス待合所として役場新庁舎の活用等、様々な関係部署と調整・連携することでクラブ活動の移動手段の確保を図りたい。

関係団体等との連携に関するスポーツ推進委員の取組

- 今年度はスポーツ推進委員と連携した取組は行っていないが、今後地域クラブ活動の維持や充実を図るには地域の協力も必要であるため、各地域から選出されているスポーツ推進委員との連携について検討を進める。



【スポーツリンクバス運行ダイヤ】



【役場新庁舎（バス待合所機能）】

2.実証内容と成果①

スポーツ庁

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

○ 地域展開する中学校及び地域展開する部活動の数

【白川中学校】

5部活動すべて平日・休日とも地域クラブ活動を実施

【黒川中学校】

3部活動のうち、ソフトテニスが今年度地域クラブを創設し、休日の地域クラブ活動として実施

- これまで地域展開の取組が進んでいなかった黒川中学校の運動部について、コーディネーターが積極的に学校や保護者へ働きかけたことで、その機運が高まった。さらに、学校・保護者・地域協力者等に対する地域クラブの設立や活動に関する相談窓口をコーディネーターが担ったことにより、地域展開の実施主体となる地域クラブの設立につながった。

<table>
<tr><td>白川中学校（114人）</td><td>平日放課後</td><td>平日17日以降
及び休日</td></tr>
<tr><td>1　女子バレー（女子）</td><td rowspan="5">部活動</td><td rowspan="5">クラブ活動</td></tr>
<tr><td>2　男子バスケット（男子）</td></tr>
<tr><td>3　剣道（男女）</td></tr>
<tr><td>4　ブレイズ（女子ソフト）</td></tr>
<tr><td>5　ネクサス（男子バレー）</td></tr>
<tr><td colspan="3">指導体制　・教員＋地域指導者（15人）</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>黒川中学校（34人）</td><td>平日放課後</td><td>平日17日以降
及び休日</td></tr>
<tr><td>1　ソフトテニス（男女）</td><td rowspan="3">部活動</td><td>クラブ活動（休日）</td></tr>
<tr><td>2　バドミントン（男女）</td><td rowspan="2">部活動</td></tr>
<tr><td>3　剣道（男女）</td></tr>
<tr><td colspan="3">指導体制　・教員＋地域指導者（2人）</td></tr>
</table>

●成果の評価

- 黒川中学校において初めての地域クラブが設立された。設立にあたっては、一般社団法人スポーツリンク白川、中学校、保護者、地域協力者のそれぞれが連携、協力することで実現できた。しかし、生徒数が少なく地域クラブ運営を支える保護者も限られているなか、さらには学校統合を控えている状況で持続可能な地域クラブ運営の在り方を検討していく必要がある。

●今後に向けて

- 令和9年度から平日、休日とも地域クラブとして実施するため、3年間の実証事業の成果をもとに、白川町にとって持続可能な地域展開の在り方を検討するとともに次の課題に取組む。

○ 基本方針

- これまでの白川町の部活動の歩みと精神を受け継ぎ、今後も子どもたちがスポーツ活動ができる環境を構築する。

○ 具体的な取組

- 学校統合を踏まえ、新しい学校づくり検討委員会において関係者との協議を進める。地域展開には、移動手段の確保、学校の日課との関係、指導者の質と量の確保、財源の確保等、多くの課題があるため、慎重に協議を進める。

2.実証内容と成果②

スポーツ庁

アンケート結果・参加者/関係者の声

●参加者/関係者の声





【令和7年12月18日　黒川中学校部活動保護者懇談会の様子】

参加者/関係者

人口が少ない地域では、指導者の確保も含めて、部活動の地域移行をこのまま続けていくのは、正直なところ難しいと感じています。

部活動が中学校から離れていく中で、中学生がこれまでのように運動や文化活動に取組める場を、学校と協力してきちんと確保していく必要があるのではないかと思います。

2.実証内容と成果

スポーツ庁

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年
コーディネーター設置、検討開始 ▶	体制整備の検討、実証事業 ▶	展開期間① ▶	展開期間② ▶	移行期間③ ▶	地域クラブ活動の開始（平日・休日）

ステークホルダー

町内2中学校（白川中学校・黒川中学校）

運営団体（一社）スポーツリンク白川

教育委員会（町コーディネーター・学校教育係・生涯学習係）

新しい学校づくり検討委員会

経過と実施内容

○ **令和5年度**

- **町にコーディネーターを設置し、地域展開に関する窓口及び推進体制を整備。**
- **関係団体との協議、新しい学校づくり検討委員会で今後の部活動の在り方を検討。**

○ **令和6年度**

- **部活動地域移行推進会議を開催し関係者と意見交換及び情報と課題を共有。**
- **新しい学校づくり検討委員会で部活動の地域展開の方向性を検討。**

○ 令和7年度

- 黒川中学校保護者懇談会において、今後の部活動の在り方を協議し、ソフトテニス部の休日の活動を地域クラブとして実施した。
- 12月に町内全5地区でまちづくり懇談会を開催し、保護者を含めた地域住民に対し、小中学校の再編と合わせて部活動の地域展開について説明した。

実施にあたって生じている課題・今後の展開

- 白川中学校と黒川中学校の部活動の変遷や現状については、20年以上にわたり地域クラブを運営してきた白川地区に対し、取組を開始したばかりの黒川地区では実施体制の整備が十分とはいえず、地域展開の進捗に差が生じている。
- 令和11年に予定されている学校再編（2中学校の統合）に向けて、地域クラブ化に関する関係者間の協議が必要である。
- 新たに立ち上げた黒川中学校ソフトテニスクラブは、学校全体の生徒数が少なく、保護者のみで活動を支えることが難しい状況にあるため、持続可能な地域クラブの在り方を検討する必要がある。

3.今後の方向性

スポーツ庁

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

令和6年 → 令和7年 → 令和8年 → 令和9年 → 令和11年

体制整備の検討、実証事業の実施 → 移行期間 2年目 → 移行期間 3年目 → 移行期間 4年目 → 地域クラブ活動の開始（平日・休日）

平日及び休日の部活動地域移行を実施

○白川中学校　部活動と地域クラブ活動の共存

○黒川中学校　部活動とクラブ活動の共存＋白川中学校の地域クラブ活動に参加する体制を整備

令和7年度の実施内容
①推進体制の確立
●町コーディネーター
●スポーツリンク白川
●町内中学校（2校）
●町部活動地域移行推進会議　ほか
②実施内容
●国の実証事業の取組
●新しい学校づくり検討委員会での検討
●各種規定等の整備
③課題等
●持続可能な地域移行の体制の確立
●運営団体「スポーツリンク白川」の体制強化
●町独自のガイドラインの作成
ほか

白川町「地域クラブガイドライン」の作成

移動手段の検討・実証の実施、検証
（通学体制及びスクールバス運行の検討）

指導者謝金の支払い・謝金体制の検証（財源確保の検討）

地域クラブ運営費の在り方検討（会費・保険・活動費・補助金等）

① 国の実証事業を活用した推進体制の整備（実施と検証）
② 関係者（関係機関及び関係団体）との協議・連携
③ 新しい学校づくり検討委員会（部会）での協議
④ 運営主体となる「スポーツリンク白川」の体制強化

新たな地域クラブ活動へ地域展開

学校の再編（2中学校の統合）